

5 特定の異性からの執拗なつきまとい等の経験

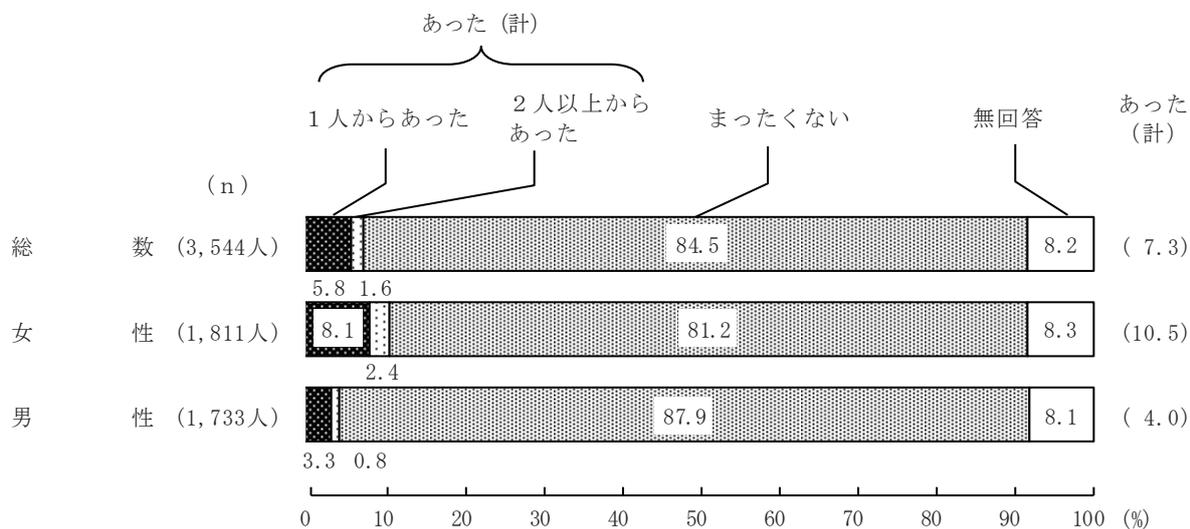
(1) 被害経験の有無

これまでにある特定の異性から執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがあるか聞いたところ、「1人からあった」という人が5.8%、「2人以上からあった」という人が1.6%で、被害経験のある人は7.3%となっている。

男女別にみると、被害経験のある女性は10.5%、男性は4.0%となっている。(図5-1-1)

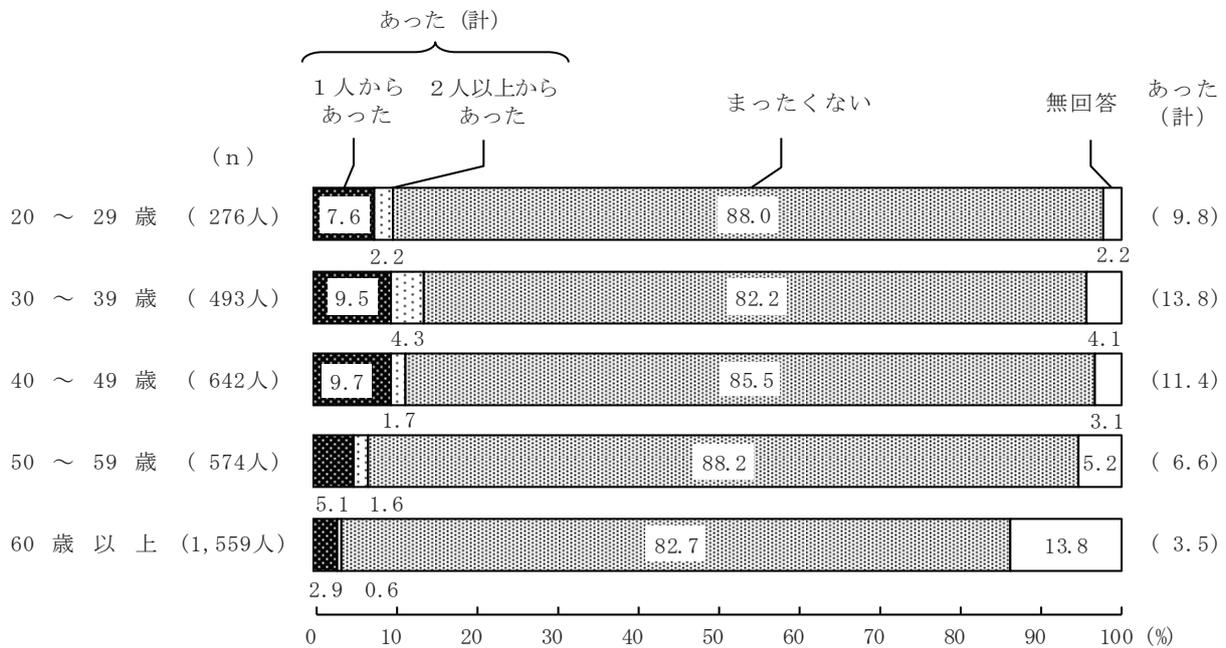
問22 あなたはこれまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

図5-1-1 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無



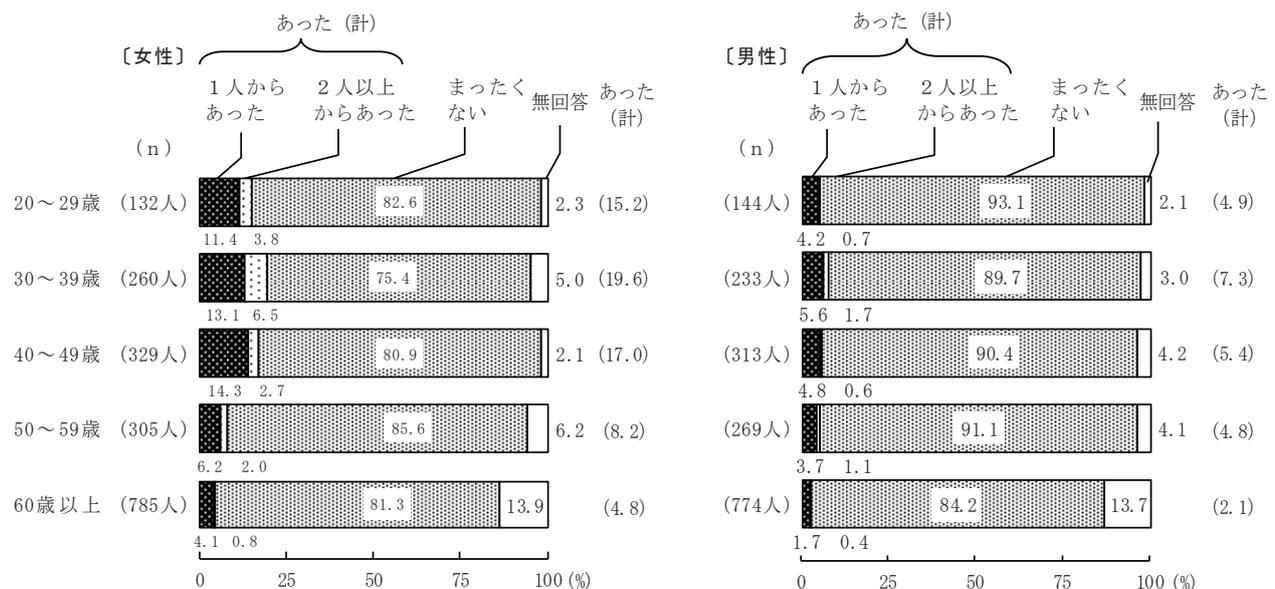
年齢階級別にみると、特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は30～39歳が13.8%で最も多く、次いで40～49歳が11.4%、20～29歳が9.8%となっている。(図5-1-2)

図5-1-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無（年齢階級別）



性・年齢階級別にみると、特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害が『あった』という人は女性の20代から40代で15%を超えている。(図5-1-3)

図5-1-3 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害経験の有無（性・年齢階級別）



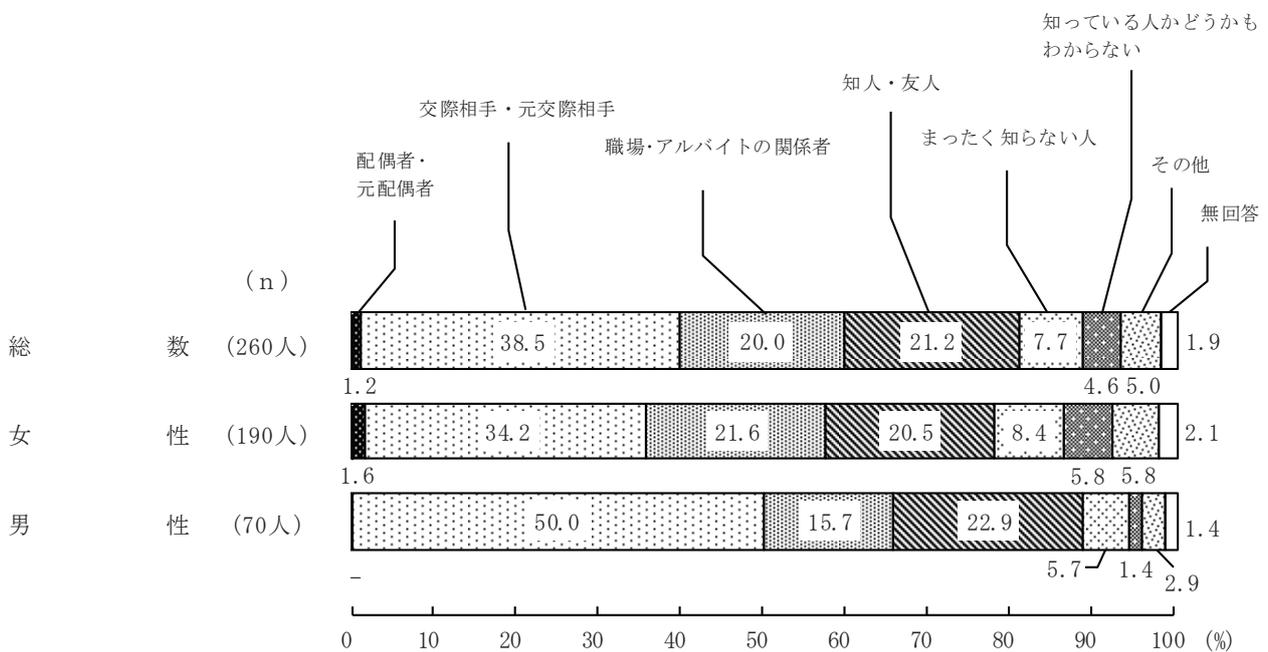
(2) 加害者との関係

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（260人）に、加害者との関係を聞いたところ、「交際相手・元交際相手」が38.5%と最も多く、次いで「知人・友人」が21.2%、「職場・アルバイトの関係者」が20.0%となっている。

男女別にみると、男性では「交際相手・元交際相手」が50.0%と半数を占める。（図5-2-1）

問23 加害者はあなたとどのような関係でしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図5-2-1 加害者との関係



*下記の選択肢は、表記を省略している。

配偶者・元配偶者：配偶者（事実婚や別居中を含む）・元配偶者（事実婚を解消した者を含む）

職場・アルバイトの関係者：職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手など）

まったく知らない人：まったく知らない人（相手の姿は見えるが、面識がなく誰だかわからないなど）

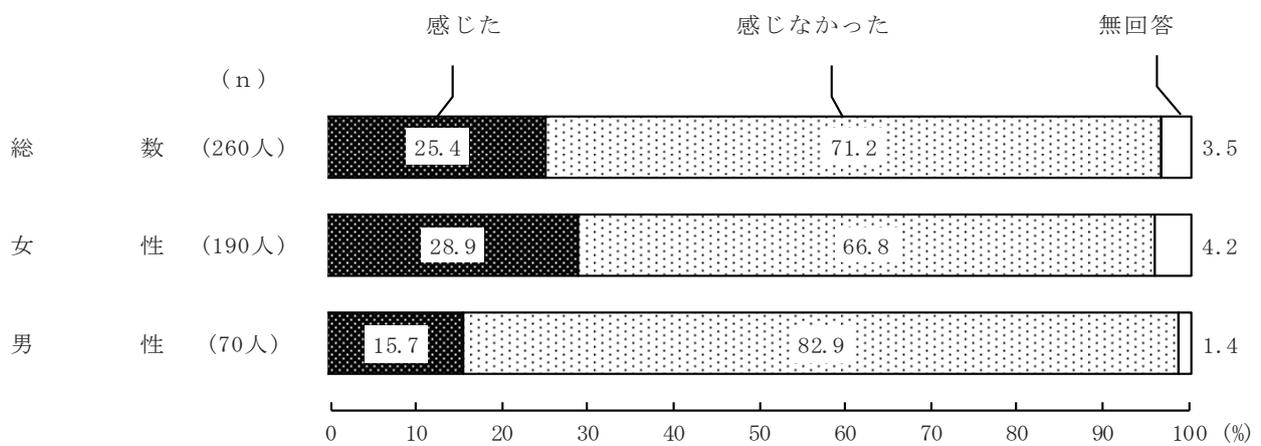
知っている人かどうかもわからない：知っている人かどうかもわからない（無言電話の相手やインターネット上の相手などで姿が見えず誰だかわからない）

(3) 命の危険を感じた経験

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（260人）に、その被害によって命の危険を感じたことがあるかと聞いたところ、「感じた」は25.4%であり、女性が28.9%、男性が15.7%となっている。（図5-3-1）

問24 あなたは、その被害によって、命の危険を感じたことがありますか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図5-3-1 命の危険を感じた経験



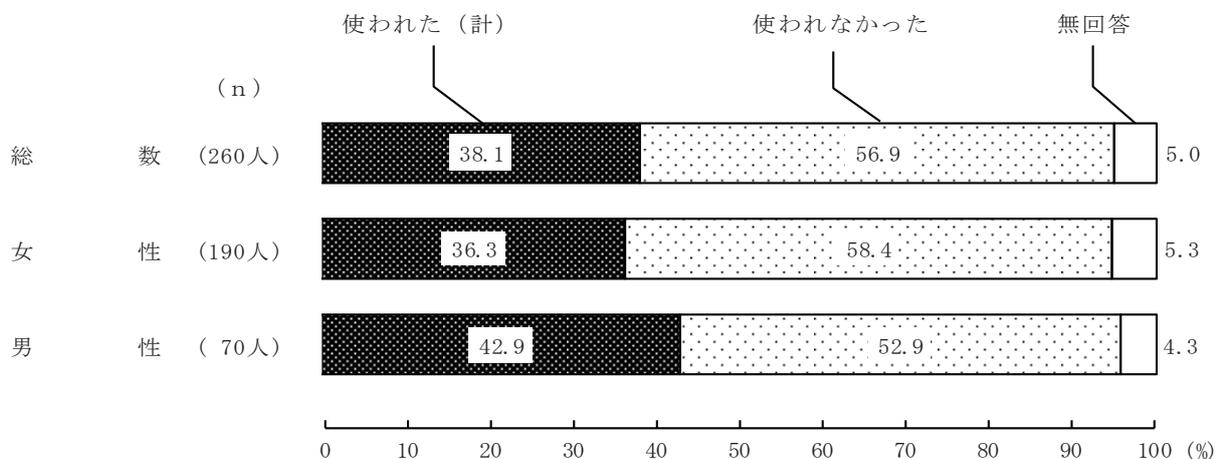
(4) 電子メールやインターネットなどによる被害経験

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（260人）に、その被害について、電子メールやインターネットなどが使われていたか聞き、いずれかの通信手段により被害があったと回答した人の合計を『使われた』としてまとめた。

『使われた』は38.1%であり、女性が36.3%、男性が42.9%となっている。（図5-4-1）

問25 その被害では、電子メールやインターネットなどが使われていましたか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

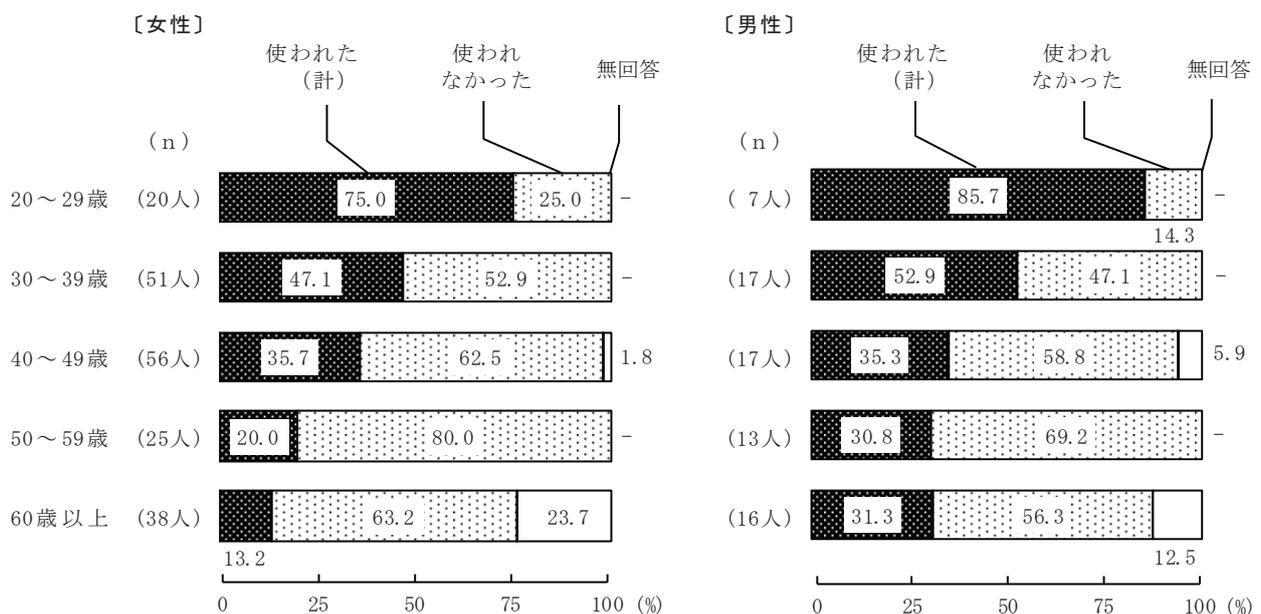
図5-4-1 電子メールやインターネットなどによる被害経験



性・年齢階級別にみると、『使われた』は、男女ともに年齢階級が低くなるほど多くなっている。

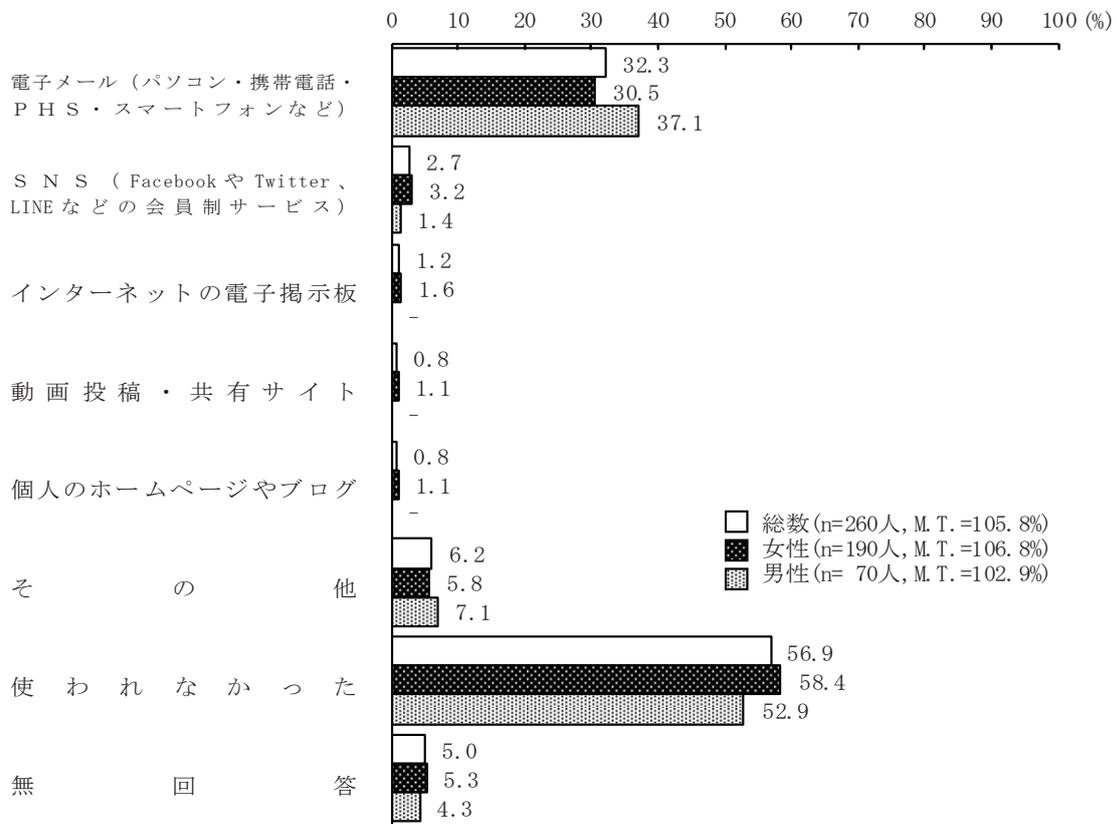
（図5-4-2）

図5-4-2 電子メールやインターネットなどによる被害経験（性・年齢階級別）



使われた通信手段をみると、「電子メール」が32.3%と最も多くあげられている。(図5-4-3)

図5-4-3 電子メールやインターネットなどによる被害経験(複数回答)



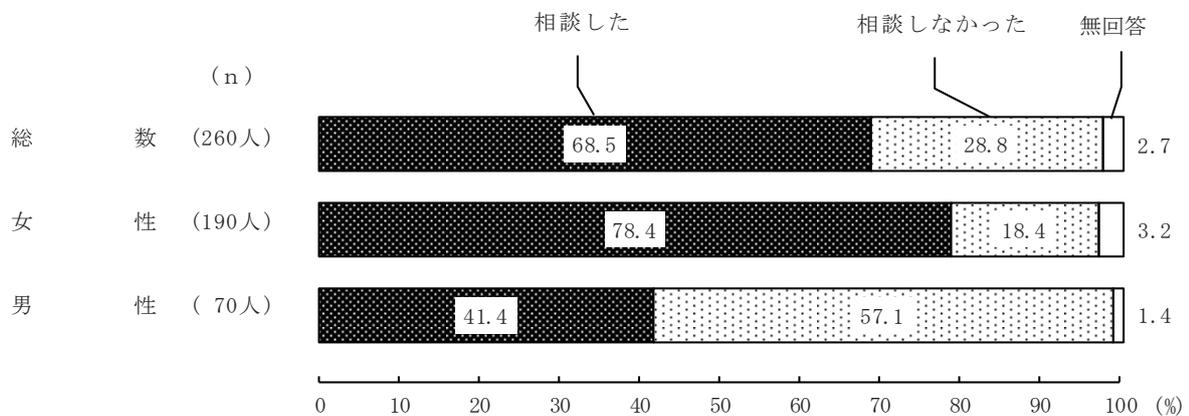
(5) 被害の相談先

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（260人）に、その被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を『相談した』とまとめた。

『相談した』は68.5%であり、女性が78.4%、男性が41.4%となっている。（図5-5-1）

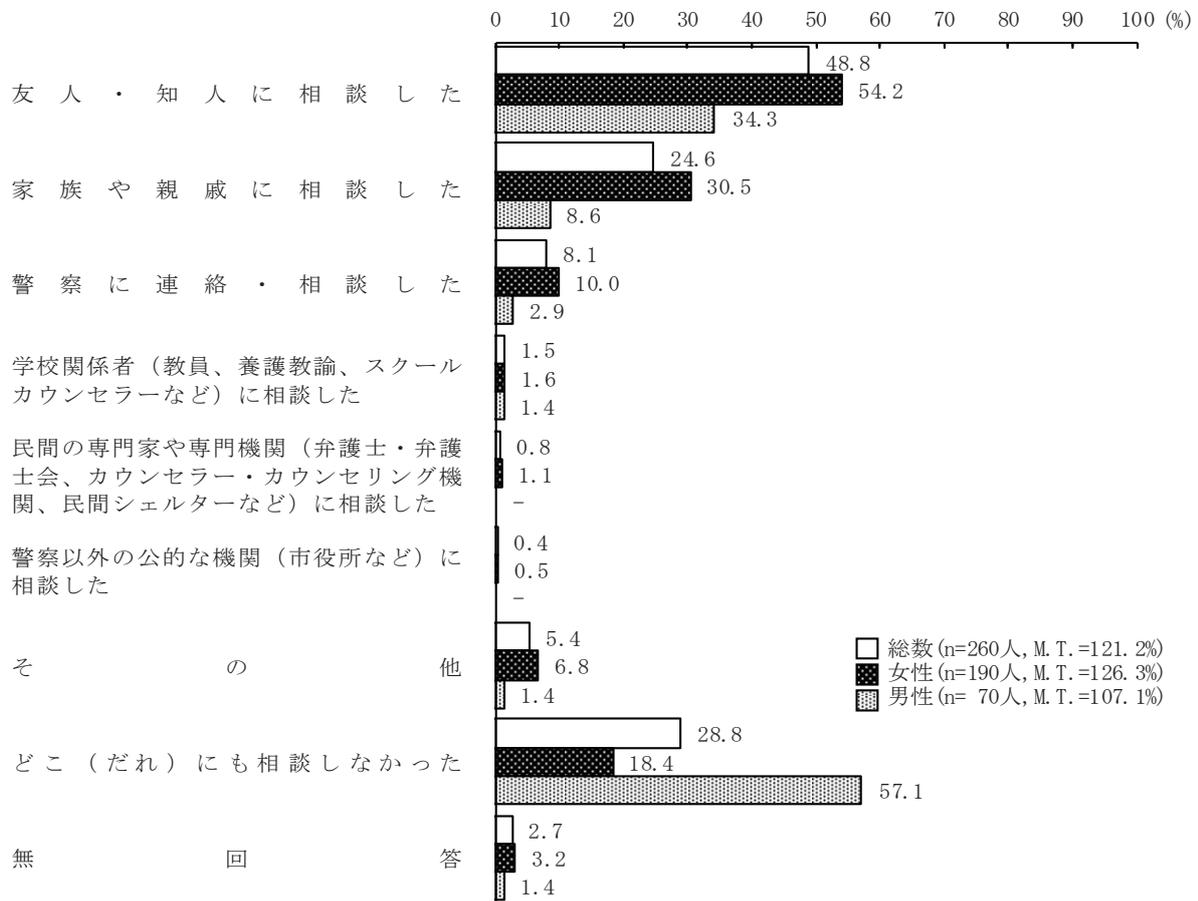
問26 あなたはその被害について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図5-5-1 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害の相談の有無



相談先をみると、「友人・知人に相談した」が48.8%と最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」が24.6%、「警察に連絡・相談した」が8.1%となっている。(図5-5-2)

図5-5-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害の相談先（複数回答）

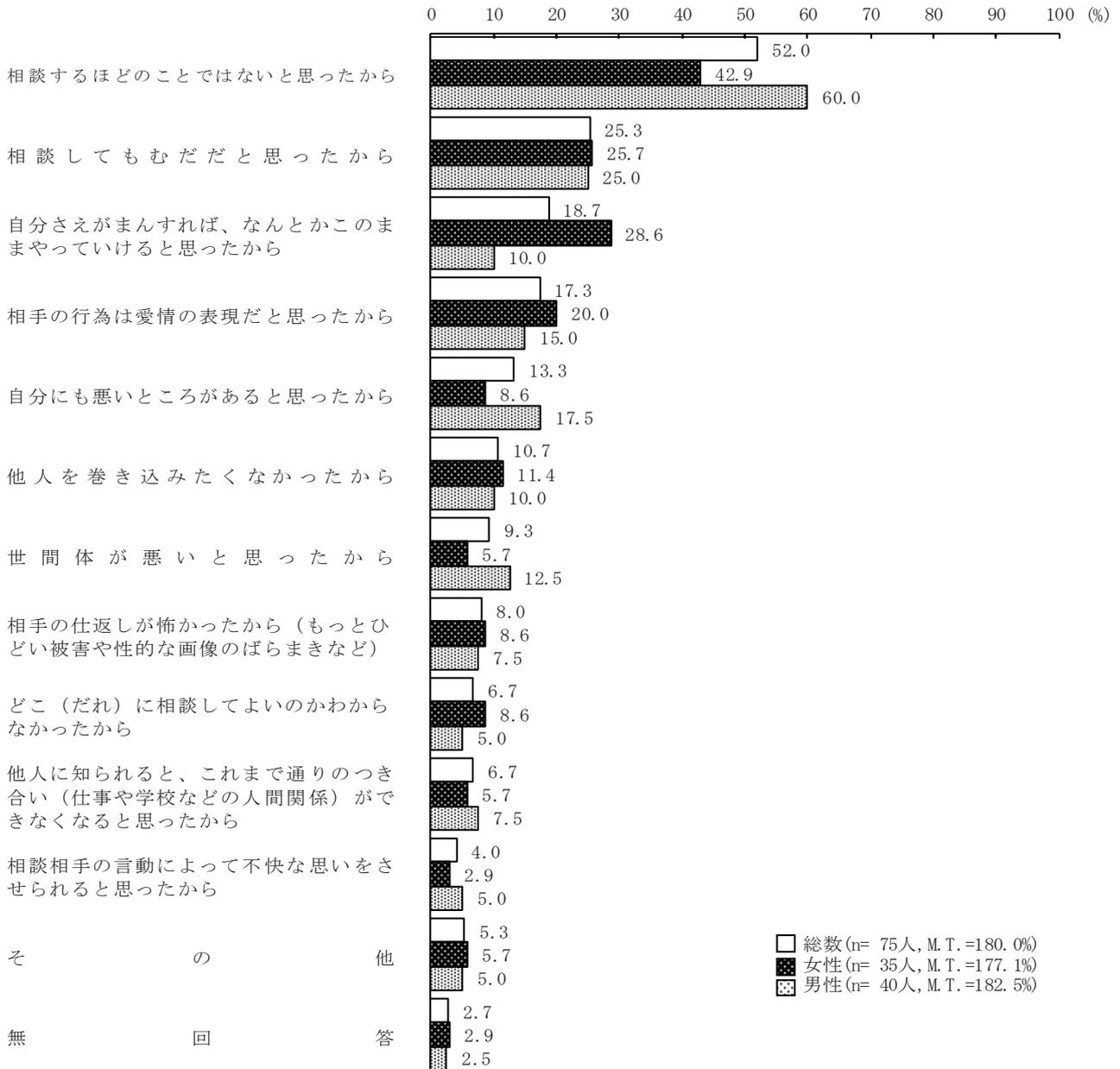


(6) 相談しなかった理由

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（75人）に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が52.0%と最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」が25.3%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」が18.7%、「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」が17.3%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が13.3%などとなっている。（図5-6-1）

問 27 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図 5-6-1 相談しなかった理由（複数回答）



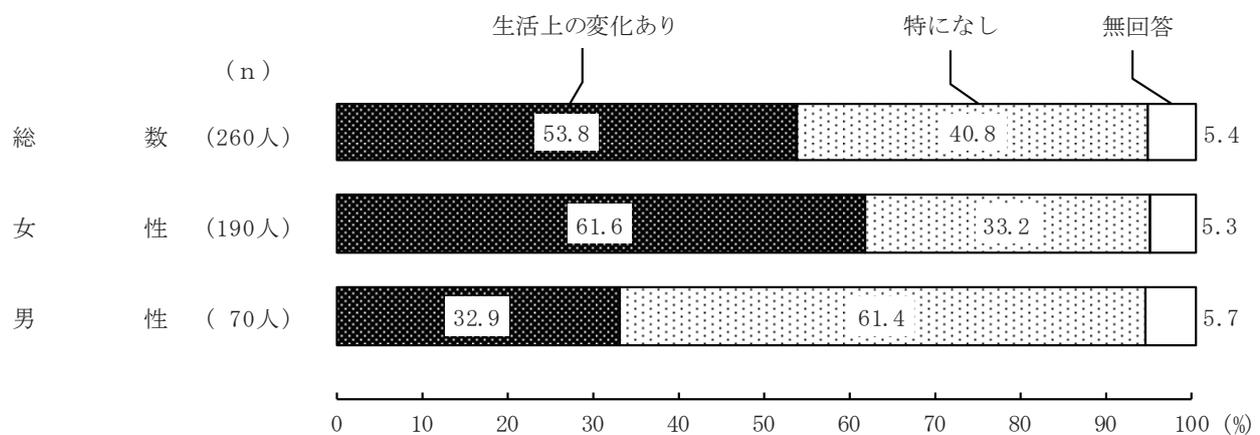
(7) 生活上の変化

特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害にあった人（260人）に、その被害による生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。

『生活上の変化があった』は53.8%と半数を超えており、女性が61.6%、男性が32.9%となっている。（図5-7-1）

問28 あなたは、加害者から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図5-7-1 生活上の変化



生活上の変化の内容をみると、「外出するのが怖くなった」が21.5%、次いで「心身に不調をきたした」が18.1%、「夜、眠れなくなった」が16.2%などとなっている。

男女別にみると、女性は「外出するのが怖くなった」が26.8%と最も多く、男性は「心身に不調をきたした」が12.9%で最も多くなっている。(図5-7-2)

図5-7-2 特定の異性からの執拗なつきまとい等の被害による生活上の変化（複数回答）

